令和５年度

柔道整復スポーツ科学科

２年

シラバス

学校法人　健生学園
東日本医療専門学校

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	病理学			授業形態	講義	教員名	齋藤　悠		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	疾病における臓器・組織・細胞の形態的変化を理解し、正常な組織・細胞との差異を認識する。学生の将来の知見を拡げる基礎となるような、基礎的病理学知識の習得を目指す。
授業の到達目標	①各々の組織における「疾病」とはどういう状態を指すのかを理解できるようになる。 ②「疾病」が発生する原因を理解できるようになる。 ③「疾病」を発生させないためには何を行うことが合理的な解決につながるかを考察できるようになる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 病理学とは　正常組織と様々な染色法 第2週目 疾病総論 第3週目 細胞障害　萎縮と変性 第4週目 細胞障害　代謝障害と細胞死 第5週目 循環障害　血液の循環異常 第6週目 循環障害　リンパ液の循環異常 第7週目 進行性病変とは 第8週目 炎症　炎症の原因　炎症による組織変化 第9週目 炎症　炎症の分類 第10週目 免疫異常　抗原・抗体・リンパ球 第11週目 免疫異常　アレルギーと免疫疾患 第12週目 腫瘍　腫瘍とは　腫瘍の原因 第13週目 腫瘍　腫瘍の分類 第14週目 先天性異常　遺伝疾患・染色体異常 第15週目 先天性異常　奇形について 第16週目 病因　内因と外因 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） ・授業は、プロジェクターによるプレゼンテーションおよび講義プリント配布形式を基本として実施する。
教科書・参考書等	病理学概論　改訂第3版（医歯薬出版株式会社）
成績評価の方法	年1回の期末試験
実践的教育に関する経歴等	歯科医師

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	一般臨床医学			授業形態	講義	教員名	洞口　亮		
科目区分	専門基礎科目	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道整復師は主に外傷の治療を行うが、それのみならず内臓疾患を有する患者の第1次医療機関の性質をも有する。内臓疾患に対しては、早期に適切な医療機関での対応が必要とされるが、その徴候を知らずして適切な対応は不可能である。本講義では、各種診察法からはじめ、各種疾患の特徴を学んでいき国民医療に寄与する医療人の育成を目指す。								
授業の到達目標	診察法及び各疾患の内科的特徴の理解								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 診察概論、診察各論1 第2週目 診察各論2 第3週目 診察各論3 第4週目 診察各論4 第5週目 診察各論5 第6週目 診察各論6 第7週目 診察各論7 第8週目 診察各論8 第9週目 診察各論9 第10週目 診察各論10 第11週目 検査法1 第12週目 検査法2 第13週目 呼吸器疾患1 第14週目 呼吸器疾患2 第15週目 呼吸器疾患3 第16週目 まとめ 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説、前期のまとめ 第19週目 循環器疾患1 第20週目 循環器疾患2 第21週目 循環器疾患3 第22週目 消化器疾患1 第23週目 消化器疾患2 第24週目 肝胆膵疾患1 第25週目 肝胆膵疾患2、栄養・代謝疾患1 第26週目 栄養・代謝疾患2、内分泌疾患1 第27週目 内分泌疾患2 第28週目 内分泌疾患3、血液・造血器疾患1 第29週目 血液・造血器疾患2 第30週目 腎・尿路疾患 第31週目 神経疾患1 第32週目 神経疾患2、感染症・性病 第33週目 膠原病、環境要因による疾患 第34週目 まとめ 第35週目 期末試験 第36週目 試験解説、後期のまとめ （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体として授業を進める。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。								
教科書・参考書等	一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版、2019)を教科書とする。								
成績評価の方法	期末試験の結果（80%）出席点（20%） 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	医師								

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	外科学			授業形態	講義	教員名	原田 日南子		
科目区分	専門基礎分野	単位数	3 単位	時間数	54 時間	期間	半期	27 回	対象学年	2 年生

授業概要	日常で遭遇する機会の多い外科疾患およびその適切な対応について学ぶ。
授業の到達目標	・外科的知識の基本の修得
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 損傷 第2週目 損傷 第3週目 損傷 第4週目 炎症と外科感染症 第5週目 腫瘍 第6週目 腫瘍 第7週目 ショック 第8週目 ショック 第9週目 輸血、輸液 第10週目 消毒と滅菌 第11週目 手術 第12週目 麻酔 第13週目 移植と免疫 第14週目 出血と止血 第15週目 心肺蘇生法 第16週目 脳神経外科疾患 第17週目 脳神経外科疾患 第18週目 期末試験 第19週目 甲状腺、頸部疾患 第20週目 胸壁、呼吸器疾患 第21週目 胸壁、呼吸器疾患 第22週目 心臓、脈管疾患 第23週目 心臓、脈管疾患 第24週目 乳腺疾患 第25週目 腹部外科疾患 第26週目 腹部外科疾患 第27週目 期末試験 （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。
教科書・参考書等	外科学概論　改訂第4版（南江堂）
成績評価の方法	期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	医師

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	整形外科学			授業形態	講義	教員名	尾股 聡		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	多種の整形外科疾患に対応するための骨・軟骨などの運動器の基礎的知識をもとに、整形外科の基礎的治療法、スポーツ外傷感染性疾患、腫瘍を含めた身体各部の疾患を学んでいき整形外科学全般の基礎的知識の理解を目指す。
授業の到達目標	・整形外科学全般での基本的知識の習得
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 運動器の基礎知識 第2週目 整形外科診察法 第3週目 整形外科検査法 第4週目 整形外科的治療法 第5週目 骨、関節損傷総論 第6週目 スポーツ整形外科総論 第7週目 リハビリテーション総論 第8週目 疾患別各論：感染性疾患 第9週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍 第10週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍 第11週目 疾患別各論：非感染性軟部、骨関節疾患 第12週目 疾患別各論：全身性の骨、軟部疾患 第13週目 疾患別各論：骨端症 第14週目 疾患別各論：四肢循環障害 第15週目 疾患別各論：神経、筋疾患（絞扼性神経障害） 第16週目 疾患別各論：神経、筋疾患（絞扼性神経障害） 第17週目 まとめ 第18週目 前期期末試験 第19週目 疾患別各論：神経、筋疾患（腕神経叢損傷、分娩麻痺） 第20週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患 第21週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患 第22週目 疾患別各論：神経、筋疾患（脊髄腫瘍） 第23週目 疾患別各論：神経、筋疾患（脊髄腫瘍） 第24週目 身体部位別各論：体幹 第25週目 身体部位別各論：体幹 第26週目 身体部位別各論：体幹 第27週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 第28週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 第29週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 第30週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 第31週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 第32週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 第33週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 第34週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 第35週目 まとめ 第36週目 後期期末試験 （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。
教科書・参考書等	整形外科学　改訂第4版（南江堂）
成績評価の方法	期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	医師

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	リハビリテーション医学			授業形態	講義	教員名	原田 日南子		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	2 年生
授業概要	最近の医学の進歩により感染症などの急性疾患は減少し重症疾患で死に至るような患者でもその命を救うことが可能となった。しかしその結果、重い障害を残す患者が増加し、リハビリテーション医学に対する需要や期待が大きくなってきている。コメディカルの一端を担う柔道整復師としてリハビリテーションへの理解と知識を深めることを目指す。								
授業の到達目標	・リハビリテーション知識の習得								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 リハビリテーションの理念～ 第2週目 リハビリテーションの対象と障害者の実態～ 第3週目 リハビリテーション評価学 第4週目 リハビリテーション評価学 第5週目 リハビリテーション障害学と治療学 第6週目 リハビリテーション障害学と治療学 第7週目 リハビリテーション障害学と治療学 第8週目 リハビリテーション医学の関連職種 第9週目 期末試験 (授業の方法および自学学習について) ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。								
教科書・参考書等	リハビリテーション医学　改訂第4版（南江堂）								
成績評価の方法	期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	医師								

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	衛生学			授業形態	講義	教員名	齋藤　悠		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	社会における柔道整復師の立場を活用して公衆衛生の向上を図る、そのために必要な基礎的事項を修得し、 これを応用する素養を得ることを目指す。
授業の到達目標	組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。 ①疾病予防／生命の延長／身体的・精神的機能の増進　に寄与できる知識を得ること。 ②世界の平和と安全の基礎である「健康」を追究すること。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 衛生学の歴史と公衆衛生活動 第2週目 健康の概念　疾病・障害の概念 第3週目 予防医学　健康増進・健康管理 第4週目 人口統計　疾病・障害統計 第5週目 感染症とは　感染症の動向 第6週目 感染症法　感染症対策 第7週目 予防接種法　消毒・滅菌 第8週目 世界と日本の環境問題　環境基本法 第9週目 生活環境の衛生　食中毒 第10週目 母子保健　乳幼児突然死症候群 第11週目 学校保健・学校環境　学校感染症 第12週目 産業保健　職業病・有害業務 第13週目 成人・高齢者保健　死因統計・医療と介護 第14週目 精神疾患　入院形式 第15週目 保健医療計画と行政　社会保険の概念 第16週目 疫学とエビデンスレベル　スクリーニング評価 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） ・授業は、プロジェクターによるプレゼンテーションおよび講義プリント配布形式を基本として実施する。
教科書・参考書等	「衛生学・公衆衛生学　改訂第6版」 南江堂
成績評価の方法	年1回の期末試験
実践的教育に関する経歴等	歯科医師

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道Ⅰ			授業形態	講義	教員名	渡邊一治		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	柔道の歴史を学び、理念のもと礼法、受身、投の形の基本を鍛錬習得する。
授業の到達目標	柔道理念の理解を深める。 礼法、受身、投の形（手技・腰技・足技）の習得
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目　柔道の歴史と理念 第2週目　礼法（拝礼と敬礼）・受け身・投の形 第3週目　礼法・受け身・手技① 第4週目　礼法・受け身・腰技① 第5週目　礼法・受け身・足技① 第6週目　礼法・受け身・手技② 第7週目　礼法・受け身・腰技② 第8週目　礼法・受け身・足技② 第9週目　実技中間試験 第10週目　礼法・受け身・手技③ 第11週目　礼法・受け身・腰技③ 第12週目　礼法・受け身・足技③ 第13週目　礼法・受け身・手技④・約束乱取 第14週目　礼法・受け身・腰技④・約束乱取 第15週目　礼法・受け身・足技④・約束乱取 第16週目　実技試験 第17週目　期末試験 第18週目　期末試験　解説と解答 （授業の方法および自学学習について） 1）柔道場にて実技の授業となる。柔道衣・装飾類に留意すること。 2）柔道の基本動作・受身・礼法・投の形の習得を目指す。 3）出席状況や授業態度などを重要視する。 4）授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。 5）常時安全・衛生に留意する。
教科書・参考書等	参考資料を適時配布する。 学校教材DVD
成績評価の方法	授業態度、出席状況、期末試験、実技試験等で総合的に評価する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員（整復実技・柔道実技）

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復総論Ⅲ			授業形態	講義	教員名	菅野貴宏		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	1年次に学習した身体の構造と機能をもとに、運動器の損傷や神経筋疾患への理解を深めることを目的とする。 授業は配布資料を用いた講義形式を主とし、適宜問題演習とその解説を行う。
授業の到達目標	1. 運動器疾患の病態理解のもととなる身体の構造や仕組みを理解している。 2. 各組織における分類や症状といった基本的事項を理解している。 3. 診察や施術における基本的な事項を理解している。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 各種測定評価の意義と評価 第2週目 各種測定評価の意義と評価 第3週目 運動器/神経疾患の理解1 第4週目 運動器/神経疾患の理解2 第5週目 運動器/神経疾患の理解3 第6週目 運動器/神経疾患の理解4 第7週目 運動器/神経疾患の理解5 第8週目 運動器/神経疾患の理解6 第9週目 運動器/神経疾患の理解7 第10週目 運動器/神経疾患の理解8 第11週目 小テスト、テスト解説 第12週目 各組織損傷と診察施術の基本事項1 第13週目 各組織損傷と診察施術の基本事項2 第14週目 各組織損傷と診察施術の基本事項3 第15週目 各組織損傷と診察施術の基本事項4 第16週目 各組織損傷と診察施術の基本事項5 第17週目 試験 第18週目 試験解説、授業振り返り (授業の方法および自学学習について) ・配布資料や問題演習を中心に授業を進める。（一部オンラインで資料等の配布を行う） ・欠席時の資料については各自担当教員に申し出て取りに来ること。（紛失時は再配布しない） ・小テストを公欠事由で受験できなかった場合は課題を課し、その評価を成績評価に含める。 （課題の出来により小テスト配点の50%を上限として評価する）
教科書・参考書等	柔道整復学理論編第6版(南江堂)、解剖学第2版(医歯薬)、生理学第4版(南江堂) を参考書とするので、各自持参すること。
成績評価の方法	1：小テスト（40%） 2：期末試験（50%） 3：出席状況（10%）　＊欠課1につき3点減点、遅刻早退1につき2点減点 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	草刈 直貴		
科目区分	専門分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	①身体各部の解剖学的特徴を基に、各損傷の発生要因、症状、整復、固定法について学ぶ。 ②臨床現場で遭遇する骨折・脱臼等の鑑別など、適切な判断のために必要な知識について学ぶ。
授業の到達目標	・損傷の要因となる身体各部の解剖学的特徴を理解する。 ・各損傷の特徴を理解する。
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 鎖骨骨折 第2週目 鎖骨骨折 第3週目 鎖骨骨折 第4週目 肩甲骨骨折 第5週目 肩甲骨骨折 第6週目 上腕骨骨頭骨折、上腕骨解剖頚骨折 第7週目 上腕骨外科頸骨折 第8週目 上腕骨外科頸骨折 第9週目 大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線離開 第10週目 前期小テスト 第11週目 上腕骨骨幹部骨折 第12週目 上腕骨骨幹部骨折 第13週目 上腕骨顆上骨折 第14週目 上腕骨顆上骨折 第15週目 上腕骨顆上骨折 第16週目 上腕骨顆上骨折 第17週目 期末テスト 第18週目 テスト解説 第19週目 上腕骨外顆骨折 第20週目 上腕骨内側上顆骨折 第21週目 橈骨近位端部骨折 第22週目 肘頭骨折 第23週目 胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼 第24週目 肩関節脱臼 第25週目 肩関節脱臼 第26週目 肩関節脱臼 第27週目 後期小テスト対策 第28週目 後期小テスト 第29週目 腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷 第30週目 SLAP損傷、肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩 第31週目 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害 第32週目 五十肩 第33週目 整復法、固定法の確認 第34週目 期末テスト対策 第35週目 期末テスト 第36週目 テスト解説 (授業の方法および注意点) 講義は板書が中心となる。適宜、練習問題を配布する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第6版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂
成績評価の方法	前期:前期小テスト及び前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。) 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。) ※学習態度を考慮し加点する場合がある。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅲ			授業形態	講義	教員名	半澤　優		
科目区分	専門分野	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。
授業の到達目標	1）解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解 2）臨床上重要となる特徴の理解 3）各損傷における柔道御整復術の修得
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 ガイダンス　骨盤骨単独骨折 第2週目 骨盤骨単独骨折 第3週目 骨盤骨輪骨折 第4週目 股関節部の機能解剖 第5週目 大腿骨近位端部骨折 第6週目 大腿骨近位端部骨折 第7週目 大腿骨近位端部骨折 第8週目 大腿骨近位端部骨折 第9週目 股関節脱臼 第10週目 股関節の軟部組織損傷 第11週目 股関節の軟部組織損傷 第12週目 股関節の注意すべき疾患 第13週目 大腿部の機能解剖　大腿骨骨幹部骨折 第14週目 大腿骨骨幹部骨折 第15週目 前期範囲まとめ 第16週目 前期範囲まとめ 第17週目 前期期末試験 第18週目 前期期末試験　解説 第19週目 大腿部の軟部組織損傷、注意すべき疾患 第20週目 膝関節部の機能解剖　大腿骨遠位端部骨折 第21週目 大腿骨遠位端部骨折 第22週目 大腿骨遠位端部骨折 第23週目 脛骨近位端部骨折 第24週目 膝関節脱臼 第25週目 膝蓋骨骨折 第26週目 膝蓋骨脱臼 第27週目 膝関節部の軟部組織損傷 第28週目 膝関節部の軟部組織損傷 第29週目 膝関節部の軟部組織損傷 第30週目 膝関節部の軟部組織損傷 第31週目 膝関節部の軟部組織損傷 第32週目 膝関節部の軟部組織損傷 第33週目 膝関節部の注意すべき疾患 第34週目 後期範囲まとめ 第35週目 後期期末試験 第36週目 後期期末試験　解説 （授業の方法および自学学習について） ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の飲料摂取を許可する。
教科書・参考書等	社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第6版）』 南江堂 社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂
成績評価の方法	期末試験　⇒　70%　（前期：70点/1回、後期：70点/1回） 授業内テスト　⇒　20%　（前期後期ともに2回程度） 出席状況　⇒　10%　（前期：10点、後期10点　欠席1回につき1点を減点する） ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅴ			授業形態	講義	教員名	古小高　朗浩		
科目区分	専門分野	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法の学習 ・各種外傷に関連する解剖学的内容の学習
授業の到達目標	・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法を学び、臨床現場で対応できる知識の習得を目指す。 ・定期的に実施する問題演習や小テストにより、安定した学力の定着を図る。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目　前腕両骨後方脱臼 第2週目　前腕両骨後方脱臼、前腕両骨前方脱臼 第3週目　前腕両骨側方脱臼、分散脱臼、橈骨頭単独脱臼 第4週目　肘内障 第5週目　肘関節側副靱帯損傷、肘関節後外側不安定症 第6週目　野球肘 第7週目　テニス肘、パンナ―病、変形性肘関節症 第8週目　橈骨骨幹部骨折 第9週目　ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折 第10週目　モンテギア骨折 第11週目　橈尺両骨骨幹部骨折 第12週目　橈尺両骨骨幹部骨折 第13週目　前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群 第14週目　回内筋症候群、前骨間神経麻痺 第15週目　後骨間神経麻痺、肘部管症候群 第16週目　前期総復習 第17週目　前期試験 第18週目　前期試験返却、解説 第19週目　コーレス骨折 第20週目　コーレス骨折 第21週目　コーレス骨折、スミス骨折 第22週目　スミス骨折、バートン骨折 第23週目　ショウファー骨折、橈骨遠位骨端線離開 第24週目　舟状骨骨折 第25週目　有鉤骨鉤骨折、有鉤骨体部骨折 第26週目　三角骨、豆状骨、月状骨、大菱形骨骨折 第27週目　月状骨脱臼、月状骨周囲脱臼 第28週目　TFCC損傷、ド・ケルバン病 第29週目　手根管症候群、ギヨン管症候群 第30週目　キーンベック病、マーデルング変形 第31週目　中手骨骨頭部骨折、中手骨頚部骨折 第32週目　中手骨骨幹部骨折 第33週目　ローランド骨折、第5中手骨基部骨折 第34週目　後期総復習 第35週目　後期試験 第36週目　後期試験返却、解説 （授業の方法および自学学習について） ・授業は板書を中心に行い、チョーク各色を頻繁に使用するため、それに対応できるペンを準備できることが望ましい。 ・自学学習は教科書を読み学習することを勧める、また授業中に板書した内容を参考資料として使用することが望ましい。
教科書・参考書等	・柔道整復学 ・理論編（改定第6版） ・柔道整復学 ・実技編（改定第2版）
成績評価の方法	◆小テストの成績および期末試験成績（100%）を100点法によって評価し、60点以上を合格とする。 ＊小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。 ＊小テストの実施時期は都度連絡することとする。 ＊各学期の成績は学年末に総合し、最終評定を出す。最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員免許

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅳ			授業形態	講義	教員名	津田新吾		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	下肢障害の概念を講義にて論ずる。
授業の到達目標	下腿部・足関節部の損傷を体系的に理解する。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 下腿骨幹部骨折 第2週目 腓骨骨幹部骨折 第3週目 下腿骨疲労骨折 第4週目 アキレス腱炎・アキレス腱断裂 第5週目 下腿三頭筋損傷・肉ばなれ 第6週目 下腿部のコンパートメント症候群 第7週目 距骨骨折 第8週目 踵骨骨折 第9週目 足関節捻挫 第10週目 内側側副・脛腓靭帯・二分靭帯損傷 第11週目 距骨滑車骨軟骨損傷・足根洞症候群・腓骨筋腱脱臼 第12週目 衝突性外脛骨・三角骨障害 第13週目 下腿骨遠位部骨折1 第14週目 下腿骨遠位部骨折2 第15週目 下腿骨遠位部骨折3 第16週目 総合演習 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 (授業の方法および自学学習について) 毎回の講義終了後、自主学習として問題演習を提供する。 問題演習は、全てを網羅しているものではないため、日々能動的な取り組みが求められる。
教科書・参考書等	社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第6版）』 南江堂 社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂
成績評価の方法	期末試験　100%
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅵ			授業形態	講義	教員名	鈴木 美加		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生

授業概要	手指部の損傷（CM関節脱臼～指の骨折・脱臼・軟部組織損傷）、足趾部の損傷について解剖と機能から学習し、各損傷の概要、発生機序、症状、合併損傷、治療法を学んでいく。 また、症状が類似する注意すべき疾患についても学んでいく。
授業の到達目標	1）手指部の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。 2）足趾部の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション　第19週目 第2週目 手・指部の解剖と機能、手の触診　第20週目 第3週目 手・指部の骨折　第21週目 第4週目 手・指部の骨折　第22週目 第5週目 手・指部の脱臼　第23週目 第6週目 手・指部の脱臼　第24週目 第7週目 手・指部の軟部組織損傷　第25週目 第8週目 手・指部の軟部組織損傷　第26週目 第9週目 手・指部の注意すべき疾患　第27週目 第10週目 足・趾部の解剖と機能、足の触診　第28週目 第11週目 足・趾部の骨折　第29週目 第12週目 足・趾部の骨折、脱臼、軟部組織損傷　第30週目 第13週目 足・趾部の脱臼　第31週目 第14週目 足・趾部の軟部組織損傷　第32週目 第15週目 足・趾部の軟部組織損傷、注意疾患　第33週目 第16週目 足・趾部の問題演習　第34週目 第17週目 期末試験　第35週目 第18週目 試験解説、問題演習　第36週目
	（授業の方法および自学学習について） ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・単元毎小テストを行い、結果を成績評価に含める。 ・授業毎に必ず復習し、小テストに臨むこと。 ・小テストで不十分だったところは期末試験までにしっかり復習すること。 ・授業中の携帯電話の使用（録音、録画等含む）、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 （社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂
成績評価の方法	①小テスト（20%）　計5回を予定している。 ※小テスト1回分につき、出席2点、60%以上で2点とする。 但し、やむを得ず欠席した場合は次の授業の前日までに受験し、60点以上であれば2点を加算する。 ②期末試験の成績（80%） 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は減点とする場合がある。
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務 柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅰ			授業形態	実技	教員名	渡邊一治		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	認定実技審査の課題となっている骨折・脱臼の診察・整復法・固定法を実技演習を通し理解学習する。
授業の到達目標	各症例の理解を深め正確に診断できるよう学習する。 骨折・脱臼における整復法の理解と正確な手技を習得する。 また、その固定法・包帯法が確実にできるようにする。
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 認定実技審査について、鎖骨定型的骨折(診察・整復) 第2週目 鎖骨定型的骨折(整復・固定) 第3週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定) 第4週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定) 第5週目 上腕骨外科頸骨折(診察・整復) 第6週目 肩関節脱臼(診察・整復) 第7週目 肩関節脱臼(固定) 第8週目 肩関節脱臼(固定) 第9週目 上腕骨骨幹部骨折(固定) 第10週目 肘関節脱臼(診察・整復) 第11週目 肘関節脱臼(固定) 第12週目 肘関節脱臼(固定)肘内障(診察・整復) 第13週目 骨折(診察・整復・固定) 第14週目 脱臼(診察・整復・固定) 第15週目 前期実技試験 第16週目 前期実技試験 第17週目 前期期末試験 第18週目 前期期末試験　解説と解答 第19週目 コーレス骨折(診察・整復) 第20週目 コーレス骨折(固定) 第21週目 コーレス骨折(固定) 第22週目 肋骨骨折(診察・固定) 第23週目 肋骨骨折(診察・固定) 第24週目 第5中手骨頸部骨折(診察) 第25週目 第5中手骨頸部骨折(整復・固定) 第26週目 第5中手骨頸部骨折(固定) 第27週目 下腿骨骨幹部骨折(診察) 第28週目 下腿骨骨幹部骨折(固定) 第29週目 下腿骨骨幹部骨折(固定) 第30週目 手第2指PIP関節脱臼(診察・固定) 第31週目 骨折(診察・整復・固定) 第32週目 脱臼(診察・整復・固定) 第33週目 後期実技試験 第34週目 後期実技試験 第35週目 後期期末試験 第36週目 後期期末試験　解説と解答 (授業の方法および自学学習について) 1)実習室での授業となる。白衣(上下)・身嗜み・装飾類に留意すること。 2)実習の準備(包帯・テープ・副子等)を準備し待機する。 3)欠席や授業態度なども評価対象となる。 4)授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。
教科書・参考書等	柔道整復学(理論編・実技偏)・ノートは常備 解剖学・人体解剖アトラスなど
成績評価の方法	授業態度、出席状況、課題提出、期末試験(前・後期)、実技試験(前・後期)等を総合的に評価する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員(整復実技・柔道実技)

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅱ			授業形態	実技	教員名	津田　新吾		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	2 年生

授業概要	標準的な運動器疾患の診かた（評価と治療）の概念と手順を講義及び実技にて行い、包括的なアプローチが実践出来るようなる事を目指す。
授業の到達目標	・運動器疾患の診かたを理解出来る。 ・標準的な徒手療法の考えを理解出来る。 ・対象者に安全に評価と治療が実施出来るようになる
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 運動器疾患の診かた 第2週目 運動器疾患で使用される用語と定義1 第3週目 運動器疾患で使用される用語と定義2 第4週目 徒手的診断の進め方・問診・視診 第5週目 触診と注意点　自動・他動運動検査 第6週目 臨床推理 第7週目 運動器疾患の診方1 第8週目 運動器疾患の診方2 第9週目 運動器疾患の診方3 第10週目 徒手的治療手技概論とその実際1 第11週目 徒手的治療手技概論とその実際2 第12週目 徒手的治療手技概論とその実際3 第13週目 徒手的治療手技概論とその実際4 第14週目 筋力トレーニング概論 第15週目 ファーストエイド概論 第16週目 総合演習 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 第19週目 頸椎疾患と評価法1 第20週目 頸椎疾患と評価法2 第21週目 肩関節疾患と評価法1 第22週目 肩関節疾患と評価法2 第23週目 肘関節疾患と評価法 第24週目 手関節疾患と評価法1 第25週目 手関節疾患と評価法2 第26週目 腰椎疾患と評価法1 第27週目 腰椎疾患と評価法2 第28週目 骨盤・股関節疾患と評価法1 第29週目 骨盤・股関節疾患と評価法2 第30週目 膝関節疾患と評価法1 第31週目 膝関節疾患と評価法2 第32週目 膝関節疾患と評価法3 第33週目 足関節疾患と評価法 第34週目 実技試験 第35週目 期末試験 第36週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） 毎回の講義終了後、自主学習として問題演習を提供する。 問題演習は、全てを網羅しているものではないため、日々能動的な取り組みが求められる。
教科書・参考書等	医学映像教育センター　標準徒手医学入門編運動器疾患の徒手的機能診断と治療 医学映像教育センター　日本スポーツリハビリテーション学会　JSSR認定トレーナーテキスト 南江堂　柔道整復理論編（改定第6版）
成績評価の方法	前期　期末試験　100% 後期　期末試験　70%　実技試験　30%
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅲ			授業形態	実技	教員名	津田　新吾		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道整復師に必要な触察法を習得する。									
授業の到達目標	・ 骨や筋の位置関係を正確に捉えられるようになる。 ・ 触察技術を基に後療法に発展する事が出来る。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 触診の基本 第2週目 骨盤・股関節1 第3週目 骨盤・股関節2 第4週目 膝関節1 第5週目 膝関節2 第6週目 足関節1 第7週目 足関節2 第8週目 頸椎 第9週目 頭部・頸部周囲 第10週目 肩関節・肘関節周囲1 第11週目 肩関節・肘関節周囲2 第12週目 手関節・手指部 第13週目 前腕～手指部1 第14週目 前腕～手指部2 第15週目 脊柱部 第16週目 実技試験 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） 毎回の講義終了後、自主学習として問題演習を提供する。 問題演習は、全てを網羅しているものではないため、日々能動的な取り組みが求められる。									
教科書・参考書等	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢　改訂第2版　メジカルビュー社 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹									
成績評価の方法	期末試験　70% 実技試験　30%									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅰ			授業形態	実技・実習	教員名	菅野貴宏		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。 本科目は附属接骨院内での見学実習または演習を基本とする。
授業の到達目標	・医療従事者として適切な態度や行動を示すことができる。 ・来院患者の応対について適切に説明することができる。 ・医療面接において必要な情報を聴取し、記録することができる。 ・診察において必要な徴候を確認、評価して記録することができる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 接骨院における業務の概要 第2週目 医療面接と身体診察1 第3週目 医療面接と身体診察2 第4週目 医療面接と身体診察3 第5週目 医療面接と身体診察4 第6週目 医療面接と身体診察5 第7週目 医療面接と身体診察6 第8週目 医療面接と身体診察7 第9週目 医療面接と身体診察8 第10週目 医療面接と身体診察9 第11週目 医療面接と身体診察10 第12週目 実習まとめ 第13週目 実習内評価試験 第14週目 実習内評価試験 第15週目 実習振り返り、後期の実習について 第16週目 医療面接と身体診察11 第17週目 医療面接と身体診察12 第18週目 医療面接と身体診察13 第19週目 医療面接と身体診察14 第20週目 医療面接と身体診察15 第21週目 医療面接と身体診察16 第22週目 医療面接と身体診察17 第23週目 医療面接と身体診察18 第24週目 医療面接と身体診察19 第25週目 医療面接と身体診察20 第26週目 実習まとめ 第27週目 実習内評価試験 第28週目 実習内評価試験 第29週目 実習振り返り、総合的なまとめ1 第30週目 総合的なまとめ2 （授業の方法および自学学習について） ・実習前に指定した範囲の復習を十分に行ってから臨むこと。 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項を精読し、内容を順守すること。 ＊注意事項を守らない場合は欠席扱いとする ・実習記録は実習終了後1週間以内に職員室に提出すること（期限超過、内容の不備は減点とする）。 ・欠席時は成績評価から1回につき5点を減点する。 ・各自、クリップファイルを1つ準備して実習時に持参すること。
教科書・参考書等	
成績評価の方法	欠席による減点 実習記録、課題の提出（20%） 実習内評価（80%） 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	実技・実習	教員名	菊地　司		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。 本科目は接骨院内での見学実習または演習を基本とする。
授業の到達目標	・医療従事者として適切な態度、行動をとることができる ・来院時の受付業務やベッドメイキングなどの院内環境の整備を行うことができる ・患者に対して物療機器や後療法に関する基本的な事項を説明することができる ・行った後療法についての内容や所見等をカルテに記載することができる
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション、臨床実習説明 第2週目 手技療法復習 第3週目 手技療法実技（基礎） 第4週目 手技療法実技（腰部） 第5週目 手技療法実技（背部） 第6週目 手技療法実技（大腿部） 第7週目 手技療法実技（下腿部） 第8週目 手技療法実技（足部） 第9週目 手技療法実技（肩部） 第10週目 手技療法実技（上腕、前腕） 第11週目 手技療法実技（頚部） 第12週目 前期総復習 第13週目 実習内評価（実技） 第14週目 実習内評価（筆記） 第15週目 前期学習内容総まとめ 第16週目 物理療法復習 第17週目 物理療法実技（基礎） 第18週目 物理療法実技GW1 第19週目 物理療法実技GW2 第20週目 物理療法実技GW3 第21週目 運動療法復習 第22週目 運動療法実技（基礎） 第23週目 運動療法実技（ストレッチ） 第24週目 運動療法実技（ファンクショナルエクササイズ） 第25週目 施術録とは、施術録の扱いと記載 第26週目 施術録の作成実習 第27週目 後期総復習 第28週目 実習内評価（実技） 第29週目 実習内評価（筆記） 第30週目 後期学習内容総まとめ （授業の方法および自学学習について） ・配布したプリント、またはホワイトボードを使用しながら授業を行うことを基本とする。＊臨床実習室 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項に十分に留意すること ・実習記録は実習終了後1週間以内に職員室に提出すること（期限超過、内容の不備は減点とする）。 ・実習に臨むに適切でないと判断された場合は欠席扱いとするので留意すること
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 解剖学
成績評価の方法	1）出席状況・実習内提出物（20%） 2）実習内評価（40%） 3）筆記試験（40%） ＊欠席時は成績評価から5点を減点、実習レポート未提出は2点減点、遅延提出の加点はなしとする 上記項目から総合的に評価し、60点以上を取得した場合を合格とする。
実践的教育に関する経歴等	①整骨院勤務　②柔道整復専科教員資格　③各種トレーナー

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	アスレチックトレーニング			授業形態	講義	教員名	早坂　ひとみ		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。 サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。 スポーツの組織とその運営について学ぶ。								
授業の到達目標	アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。 コーチ、スポーツドクターの役割とアスレティックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。 アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 アスレティックトレーニングとはアスレティックトレーナーの業務 :①スポーツ傷害（分類、メカニズム）　②傷害の評価 第2週目 アスレティックトレーナの業務：①スポーツ現場における救急処置　②スポーツ外傷・障害の予防と防具　③アスレティックリハビリテーション　④コンディショニング 第3週目　アスレティックトレーナの業務：測定と評価 第4週目　測定と評価　実技：関節弛緩性、周径囲 第5週目 測定と評価　実技：タイトネス、アライメント 第6週目 測定と評価　実技：タイトネス、アライメント 第7週目 防具、補装具　理論及び実技：テーピング（手関節、指関節、足部、踵部） 第8週目 防具、補装具　実技：テーピング（足関節） 第9週目 防具、補装具　実技：テーピング（膝関節、肘関節） 第10週目 防具、補装具　実技：テーピング（アキレス腱、下腿） 第11週目 防具、補装具　実技：テーピング　復習 第12週目 防具、補装具　実技：テーピング　復習 第13週目 防具、補装具　実技：テーピング　テスト 第14週目 テスト 第15週目 解答 （授業の方法および自学学習について） 事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。 ※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。 必要なテーピングの種類や実施時期については授業内で説明する。								
教科書・参考書等	①財団法人　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー　専門科目テキスト1　アスレティックトレーナーの役割 ②財団法人　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー　専門科目テキスト6　予防とコンディショニング ③配布資料								
成績評価の方法	期末テスト								
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー								

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	ストレングス＆コンディショニング			授業形態	講義	教員名	早坂　ひとみ		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	科学的根拠に基づいてトレーニングプログラムの作成法、指導法を知識を理解し実践できる。 トレーニング指導者に必要な基本的な知識を理解する。									
授業の到達目標	科学的根拠に基づき、スポーツ種目や選手の特性に応じたトレーニング計画をたてるために必要な理論と実践力を養う。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 トレーニング計画の立案 第2週目 運動生理（骨格筋系） 第3週目 運動生理（エネルギー代謝、呼吸循環系） 第4週目 筋力向上トレーニング 第5週目 筋力向上トレーニング　実技 第6週目 パワー向上トレーニング 第7週目 持久力向上トレーニング（有酸素性、無酸素 第8週目 ウォーミングアップとクーリングダウン 第9週目 柔軟性向上トレーニング：理論 第10週目 柔軟性向上トレーニング：実技 第11週目 運動と栄養 第12週目 運動と医学（整形外科的傷害と予防、生活習慣病予防、子供、高齢者） 第13週目 運動と心理 第14週目 テスト 第15週目 解答 (授業の方法および自学学習について) 授業で学習する内容に関して予習をする。 各種トレーニングは、理論をよく理解し、実際にトレーニング実技ができるよう学習する。 ※講義進行中にトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。									
教科書・参考書等	①トレーニング指導者テキスト　理論編・改訂版 ②トレーニング指導者テキスト　実践編・改訂版 ③トレーニング指導者テキスト　実技編・改訂版　及び、配布資料									
成績評価の方法	期末テスト									
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	スポーツトレーナー演習			授業形態	講義	教員名	佐々木　俊尚		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生

授業概要	●トレーナー活動に必要な鑑別、応急処置の実践 ●トレーナーと選手との関わり方
授業の到達目標	・トレーナー活動に必要な知識・考え方を身につける ・障害（傷害）の処置方法を身につける
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション 第2週目 トレーナーの種類と役割 第3週目 テーピングの種類と目的、選び方、RICE処 第4週目 足関節捻挫について 第5週目 足関節捻挫の鑑別と処置 第6週目 膝の外傷について① 第7週目 膝の外傷の鑑別と処置① 第8週目 膝の外傷について② 第9週目 膝の外傷の鑑別と処置② 第10週目 各部肉離れについて 第11週目 各部肉離れの鑑別と処置 第12週目 ここまでのまとめ 第13週目 期末試験（実技） 第14週目 期末試験（筆記） 第15週目 前期まとめ （授業の方法および自学学習について） ・黒板を使用し、板書にて授業を行い、実技も行う。 ・実技の際は本番（現場）同様にしっかりと声を出すこと。 ・実技に関しては各自復習を行うこと。
教科書・参考書等	柔道整復学（理論編）、柔道整復学（実技編）を参考書とする。
成績評価の方法	①実技による期末試験（100点）　※服装による減点あり。 ※術者・患者の両方を行い、術者時配点（80点）、患者時配点（20点）。 ②欠席、遅刻、早退の多い学生には単位を与えない。 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	①整骨院勤務　②高校野球春選抜大会トレーナー　③テコンドー国際大会トレーナー